

国語 第2学年 だいじなことばに気をつけて読み、確かめたことを知らせよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：ロボットについて、何をするものか、どの説明からそう分かるかを結び付け、読んで確かめたことを相手に知らせる。教科書から確かめたことと、図書で調べて確かめたことを混ぜない。C(1)力の学習として、ロボット紹介カード。名称、働き、読んで驚いたこと、調べた本の題名を書く。写真や教科書の挿絵は複製せず、必要なら自分の図で働きを示す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、ロボットの働きについて文章を読んで確かめたことを、本文の言葉を確認しながら友達と共有しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)力の姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：ロボット紹介カードを残す。名称、働き、読んで驚いたこと、調べた本の題名を書く。写真や教科書の挿絵は複製せず、必要なら自分の図で働きを示す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)力に関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：見た目の感想だけを話す、書いていない機能を想像で補う、図の印象だけで説明する。これについて、「名前」「すること」「本文で確かめたところ」の欄を並べる。働きの内容の理解が難しい場合は、誰が何をする文なのかを主語と述語に分け、動きを身振りで確かめてから言葉に戻す。〔知識及び技能〕(3)エとC(1)力を切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「友達にこのロボットの働きを知らせるには、どの言葉を大事にして説明しますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)力に関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：ロボット紹介カードは紙に記録できる。名称、働き、読んで驚いたこと、調べた本の題名を書く。写真や教科書の挿絵は複製せず、必要なら自分の図で働きを示す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)力の評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)力で目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：ロボットの種類や最新機能を教師が教える必要があるか。

返し：知識の網羅が目的ではない。C(1)力と〔知識及び技能〕(3)エに沿い、児童が読める説明の範囲で、読んで確かめたことを知らせる。掲載されていない性能は補わない。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「友達にこのロボットの働きを知らせるには、どの言葉を大事にして説明しますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

